

〔第20回〕

# NCGG-RI 研究発表会

National Center for Geriatrics and Gerontology, Research Institute

## 認知症における病理解剖の意義と方法

バイオリソース研究室

矢澤 生 室長

2017年5月9日(火) 16時30分～  
第1研究棟2階大会議室

認知症や神経変性疾患の確定診断には病理解剖が必要ですが、近年日本において病理解剖の症例数が減少しています。今日、在宅医療が重要なテーマとなっている認知症の医療現場で、病理解剖を継続するために様々な取り組みが行われています。認知症の発症機構の解明や治療法開発研究を行う上で、実際に患者さんの中核神経系に起る病態を確認する病理解剖は重要であることは、今も昔も変わりません。そこで、本セミナーでは認知症の研究基盤となる病理解剖や組織診断がどのように行われるのかを、具体的な症例で説明します。そして、本来は死因の究明と病気の確定診断を目的とする病理解剖から得られる死体組織を、最先端の認知症研究のためのバイオリソースとして生かすために行われる工夫について述べます。古典的な病理解剖を新しい治療研究に役立てることにより、病理解剖の重要性を再認識することができる考えます。

座長：多田 敬典